

## 会議要録

会議名	第3回港区立学校図書館運営業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和5年2月8日(水曜日) 午前9時00分から午前11時30分まで
開催場所	港区立教育センター 研修室1
委員	(出席者)松浦正和委員、石井卓之委員、松本直樹委員 上村隆委員、篠崎玲子委員
事務局	澤木俊宏、小林あかり、堀内遥(教育支援係) 加藤靖規(指導主事)
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会
配付資料	[配付資料] 資料1 第二次審査実施概要 資料2 第3回選考委員会進行スケジュール 資料3 第二次審査採点基準表(3事業者分) 資料4 第一次審査・第二次審査集計結果(※採点終了後、机上配布) 資料5 第2回港区立学校図書館運営業務委託事業候補者選考委員会会議要録 参考資料1 第一次審査集計結果 参考資料2 事業候補者選考基準 参考資料3 仕様書(案)

## 会議の結果及び主要な発言

### 1 開会

### 2 第二次審査実施概要について (事務局説明)

A委員 質疑応答について、質問はプレゼンテーションで説明のあった内容のみに限らず、企画提案書の記載内容を加味して質問してよいか。

事務局 企画提案書を加味して質問してもかまわない。

### 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施

#### A事業者

(1) プレゼンテーション  
(事業者説明)

(2) 質疑応答

A委員 デジタル教科書、STEAM教育を具体的にどのように生かすといった構想はあるか。

A事業者 STEAM教育について、他の機関と連携し、貸し出し用の展示や、学校図書館での巡回展示等を検討している。また、理科読が推進するような本を導入し展示するほか、中学校に関してはより専門的な本を導入することで、児童・生徒の興味関心につなげる。デジタル教科書については文部科学省の方針が定まっていないため、どのように区として活用するかは未定だが、当社としては、見積金額外ではあるが、タブレットを配備することでデジタル教科書を取り入れるほか、新聞のデータベース等も導入することを検討している。学校図書館が情報センターという機能により多くの情報が子どもたちに届くようにする。

A委員 STEAM教育についてどのように考えているか。

A事業者 STEAM教育とは、数学や化学をより専門的に学ぶことであり、当社では、科学に関する研究や実験等の講座を実施する協力企業があることから、学校図書館で放課後に理科の実験に近い活動を取り入れることを検討している。また、STEAM教育に関する巡回特設展示なども考えている。

B委員 学校図書館で働くスタッフの待遇について、経験が豊富でスキルが高いスタッフの基準はなにか。また、そのスタッフに対して、平均的にどのくらい報酬を支払う予定か。

A事業者 学校司書の待遇について、実績があるスタッフには少なくとも時給で平均1350円以上を検討している。学校からの満足度が高く、学校図書館全体の機能を高めるための情報共有や情報発信ができるスタッフを特に高く評価する。

B委員 区立図書館との連携について、団体貸出をどのようにすすめていくか。また、レファレンスについて詳しく伺いたい。

A事業者 区立図書館との連携では、団体貸出依頼時に授業支援シートの活用を検討し

	<p>ている。団体貸出を利用する際、学校の要望を事前に細かい内容まで聞き取りを行い、区立図書館の選書の手間をかけないようにわかりやすくテーマを設定し、依頼をかけ、団体貸出をすすめていく。レファレンスについて、ネット上では検索ができない課題については、区立図書館のデータベースを活用する。最終的には区立図書館と学校図書館で共同のデータベースを構築できるとよいと考える。</p>
B委員	<p>データベースの構築に限らず、区立図書館との連携が構築できればよいと思うが、その点についてどう思うか。</p>
A事業者	<p>区立図書館で、団体貸出の時期が重なり学校に貸さないといけない本が貸せないという問題がないように、学校図書館と連携してスケジュールを調整したいと考える。</p>
C委員	<p>タブレット以外で学校図書館運営をどうより良くしていくのか。</p>
A事業者	<p>NIE新聞を活用した学校図書館を検討している。これまでも、各新聞会社と連携しながらワークシートを提供し、毎週学校図書館に掲示している。掲示内容について、生徒自身が原因を知らべたり自身が取り組めることについて考えたりすることで、「学習センター」「情報センター」として機能するようにしている。</p> <p>NIEに限らず、SDGsに関しても、ヒントを先回りして伝えることを今後もすすめていきたい。</p>
E委員	<p>団体貸出以外で、区立図書館と連携してできることはあるか。</p>
A事業者	<p>区立図書館ではパンフレットやリストで本を紹介しているが、そのリストを事前に事業者内で共有しその中から数冊学校図書館に配備する。そして、リスト内にあるが学校図書館に配備しない本については、区立図書館に足を運んで読んでもらうように周知する。</p> <p>また、イベントについても、学校図書館がインフルエンサーとして積極的に情報発信できるようにする。区立図書館と相談の上、ワークショップをすることも検討している。</p>
E委員	<p>学習センター機能の拡充について詳しく伺いたい。</p>
A事業者	<p>先生自身が学校図書館を利用しようとする意識の向上が必要であると考えますが、限られた授業時間のなかで学校図書館を活用することは現実的に難しい。</p> <p>そこで、授業支援や調べ学習等の内容を一覧表にまとめて先生に提示するほか「調べ方がわからない」等の児童が抱える学習に関する不安要素に対して、学校司書と一緒に授業に加わることで、学習センター機能の拡充が図れるのではないかと考える。また、学習センター機能の拡充にあたり、研修も新たにすすめていく。</p>
E委員	<p>新校舎での配置について、赤坂小・中学校、赤羽小学校にはどのような人材を配置予定か。</p>
A事業者	<p>赤羽小学校は、勤務経験のある図書館司書が在籍しているため、継続して配置する予定である。赤坂小・中学校については、業務経験のある者が赤坂小・中学校を兼務するような勤務体制が学校図書館の運用上最もスムーズではないかと考える。</p>

E委員	学校図書館運営について、なにか斬新な提案はないか。
A事業者	現在、読書推進アプリを開発している。紙の読書通帳をアプリ化し、読んだ本がどのような内容だったか、クイズ形式で振り返るようにする。さまざまな観点から振り返ることができるようにし、自分がこれまでどの分野の本を多く読んだか確認できるアプリを開発中である。区と相談の上、来年度内に運用できればと考える。
D委員	学校司書と先生との日常での関わり方について、どのように指導していくか。
A事業者	学校司書から先生に相談する際に時間に余裕をもつことや、資料を用意して先生が即時に判断できるようにすることを指導していく。先生方が負担にならないように提案しながら、了承を得られたものをすすめていくことを意識する。
	(3)採点
	B事業者
	(1)プレゼンテーション (事業者説明)
	(2)質疑応答
B委員	図書館との連携体制について、学校司書と先生がやりとりをするなかで偽装請負が懸念されるが、偽装請負についてどのように考えているか。
B事業者	全校一時間程度で駆け付けられるところに事務所があるため、緊急時にはいつでも駆け付けることが可能である。連絡体制については、司書・支援員にスマートフォンを配備し、コミュニケーションツールとして日々の業務でのやりとりに活用していく。また、偽装請負を避けるため、打合せ時には本部の者が必ず同席するほか、派遣と請負の違いを理解するよう事前研修を必ず実施する。しかし、研修により上手くコミュニケーションがとれなくなることも考えられるため、本部担当者が関わりながら、密な意見交換を進めていきたいと考える。
B委員	読書カードの電子化について、自由な発信により利用者の秘密が漏れてしまう可能性があるが、セキュリティについてどのように考えているか。
B事業者	読書カードの電子化は、児童・生徒が自身で選んだ紹介したい本を発信する仕組みとなっている。しかし、公開する際に先生の事前確認が必要である等、運用上の問題が挙げられるため、現在、各種機能についてテストをしている段階である。システム自体のセキュリティは担保されているので、公開範囲に関しても必要に応じて制限をかける等の調整ができるよう引き続き確認作業を行っていく。
D委員	特別支援学級におけるビブリオバトル等のイベントについて、実施するとなった際には、先生へのサポート等をしながらすすめることは現実的に可能か。
B事業者	ビブリオバトルは別の地域で実績がある。実施する際には司書・支援員のみで取り組むことは難しいので、本部が深くかかわり実施する。ビブリオバトルは、生徒に限らず保護者や地域の学校への理解という点でも有意義であるため強く提案したい。先生方へのサポートに関しては、授業前の情報交換と授業後のフォローを常に徹底している。授業支援、イベント時には、先生との打合せに関わるほか、通例行事であれば、司書と先生で事前に打合せした内容を計画書に記載して提出し、実施後の報告書もまとめてノウハウを蓄積する。さらに、他の学校でも生かせ

	<p>るものは区にも生かし、先生の意向に寄り添いながら、実績を活用していく。</p>
C委員	<p>サポートセンターについて、学校側の窓口は誰になるか。</p>
B事業者	<p>学校側の窓口は統括責任者含む4名での体制になる。学校には緊急連絡先を共有する。</p>
E委員	<p>1つの学校に週5日支援員を配置し、2名体制で行うとの記載があるが、それぞれどのように配置し支援員同士が関わっていくか。</p>
B事業者	<p>1つの学校で週2日勤務の者、週3日勤務の者、それぞれ別の者を配置することを想定している。また、週2日勤務の者であればつながりのある小・中学校にそれぞれ配置することを検討している。</p>
E委員	<p>電子図書館について、予算等はどのように考えているか</p>
B事業者	<p>システムの構築全体の費用を提案見積金額に含めている。多言語対応のコンテンツを導入することを検討しており、導入の際には年間90万円程度を想定している。</p>
	<p>(3)採点</p>
	<p>C事業者</p>
	<p>(1)プレゼンテーション (事業者説明)</p>
	<p>(2)質疑応答</p>
A委員	<p>PDCAサイクルについて、どのくらいのスピード感で取り組むか。</p>
C事業者	<p>PDCAサイクルは、月に一度の計画に対して、1か月単位で業務報告することを基本とする。しかし、イレギュラーな改善事項、急ぎの案件については随時解決し、報告する流れとする。</p>
A委員	<p>「ライブラリアンのための英会話研修」について伺いたい。</p>
C事業者	<p>「ライブラリアンのための英会話研修」では、英語の専門用語について動画配信をしており、いつでもどこでも学習できるほか、必要最低限の英会話集がまとまった冊子をスタッフに配付し、基本的な内容から中程度、本格的な内容の3段階の研修を行っている。</p>
C委員	<p>どのくらいの報酬を予定しているか。今後どのようにスタッフを採用していくのか。</p>
C事業者	<p>時給単価について、基本的には現状以上とし、評価制度で昇給することを予定している。基本的には利用者と現在のスタッフは密接につながっていると考えるため、あまりインパクトを与えないように、スムーズに移行したい。希望するスタッフがいたら優先的に従事の受入をしたいと考える。また、現在2800名程のスタッフがいるため、異動や家庭の事情を加味しながら最終的なスタッフを決定していきたいと考える。</p>

E委員	テクニカルサポートグループのメリットについて知りたい。
C事業者	テクニカルサポートグループとは直接学校に関わる部署ではないが、研修の計画をたてるほか、各校勤務のスタッフの様子を確認しながら学校図書館の質の均一化を図るグループである。さまざまな問合せをデータベース化し共有することで、個別に解決ができるため、これまでの図書館運営のノウハウが詰まっている点がメリットである。
E委員	区立図書館との連携について、斬新な提案があれば伺いたい。
C事業者	電子図書館を導入する際に、区立図書館と相乗効果で導入していくほか、システム連携や団体貸出に関しても学校と区民の要望を組み合わせながら取り組んでいきたい。斬新な提案としては、現在、「バーチャル図書館」を開発しており、家においても書架を眺めながら本を発見できる仕組みによって読書欲を掻き立てるようにしている。このシステムを今後学校図書館に導入できたらよい。
B委員	従業員の安定的な勤務環境について、欠員がうまれるかどうか、詳しく伺いたい。
C事業者	業務支援チームが5名体制でなにかあれば駆け付ける体制をとっている。業務支援チームのほとんどが司書資格や業務経験があるため、業務支援チーム、責任者、担当者全員で業務の支援ができる体制をとっており、欠員が発生した際のサポートは可能である。万が一のときにはスタッフ同士で代替職員を探し、振替等の対応を行う。
B委員	文部科学省が学校司書モデルカリキュラムを策定しているが、学校司書を採用する際には、大学での履修状況等は確認しているか。
C事業者	入社する際には当然司書資格の有無を重視しているが、大学と関わりがあることから学校司書・司書教諭の資格取得支援業務を行っているため、大学で司書資格の案内も合わせて行っている。
B委員	SDGs、STEAM教育についてなにかノウハウをもっているか。
C事業者	子どもの遊びから学びを作る、教育につなげる事業を行っており、天文学系や工学系に詳しい大学からの支援のもと、電気自動車を小学生につくってもらうなど実証実験を含めて実施している。このノウハウを学校図書館や授業につなげて世に深めていくことができればと考えている。
D委員	学習サポートについて詳しく伺いたい。
C事業者	図書館は静かに読書をする環境が一般的であるが、あえて図書館で、グループで集まって話し合いながら学びを深める取組をしている。学校図書館の新たな機能として生かしていきたい。
D委員	家読について詳しく伺いたい。
C事業者	ひとりで読むのではなく、家族で共有し本の紹介を行っていく取組を推進したいと考える。

D委員	家読について、多くの利用者に浸透させるために、どのようにPRしていくか。
C事業者	<p>家読について知ってもらうことが大事と考える。生徒と家庭をまきこんで家読を広めていきたいと思う。</p> <p>(3)採点</p> <p><b>4 第二次審査結果及び事業候補者の選定について</b> (採点結果集計について、事務局説明)</p> <p>A事業者1590点満点中1146点 B事業者1590点満点中1120点 C事業者1590点満点中1228点</p>
A委員	<p>A事業者は区のことをよく理解しており、細かい対応が可能であるが、図書館の発展性に関する提案がもう少し欲しかった。B事業者は第一次審査時の印象に比べてプレゼンテーションが良いと感じた。提案内容の詳細がよく分かり、人数の確保もできると思ったが、提案の将来性に少し不安を感じた。C事業者は勤務体制が整っており、図書館に関する専門的な業務支援や人的・精神的支援についてフォロー体制が手厚くなっている。また、G I G Aスクール構想やS T E A M教育等につながる取組に関するノウハウを持つことから、今後、区立図書館との連携を図りながら「学習センター」、「読書センター」、「情報センター」の3つの機能について更なる発展が期待できる。</p>
B委員	<p>A事業者は、取組意欲は感じたが、質問に対しての回答が的確ではなかった点と専門知識について不安を感じた。B事業者は、学校図書館の実務経験があると感じたが、従業員の配置計画について不安を感じた。C事業者は提案がまとまっており、人材育成の仕組みが整っている点がよかった。</p>
E委員	<p>全体としてどの事業者も任せられると感じた。</p> <p>A事業者はやる気が伝わったが、これまでの現状を超えるような提案について尋ねた際に期待した回答が得られなかった。B事業者はプレゼンテーションが良く、細かい対応ができると感じたが、区の求めている水準に関しては不足してると感じた。C事業者は緊急時の管理体制が整っているほか、テクニカルサポートグループスタッフのような現場運営の支援体制が充実しており、図書館に関する専門的な業務支援や人的支援、精神的支援が手厚いことから、スタッフが安定して勤務できる体制が整っていた。</p>
C委員	<p>A事業者は区のことをよく知っているが、人材育成が弱い点と、今後の発展性に不安を感じた。B事業者は、提案内容はまとまっているが、サポートセンターや窓口体制が明確ではないと感じた。C事業者は提案内容がまとまっているほか、学校司書や学校図書館支援員の資質向上のための研修体制が整っており、専門的知識を有する質の高いスタッフの配置ができると感じた。また、日々の業務を大切にしていることが伝わった。</p>
D委員	<p>学校側の視点に立ち評価した。A事業者は具体的な提案があり、学校をよく理解している点に安心感があつた。B事業者は先生方へのサポート、子どもたちの興味・関心を引き付ける提案内容があつたため安心感があつた。C事業者は学校での経験は少なく感じたため、学習サポート等のノウハウをもう少し詳しく伺えれば</p>

委員長	<p>よかったと思った。</p> <p>集計結果をもって、当委員会として、C事業者を事業候補者として選考してよろしいか。</p> <p>一同賛成</p> <p>協議の上、C事業者を事業候補者に決定する。</p> <p>5 その他 (事務局説明)</p> <p>6 閉会</p>
-----	--